

平成 28 年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

「地区研修(三八地区)」

平成28年7月8日(金) 会場名:八戸市児童科学館

生涯学習・社会教育関係職員研修講座「地区研修(三八地区)」が、7月8日(金)八戸市児童科学館において受講者12名で実施されました。

この研修は、県内6地区の地域課題の把握に努め、各地区のネットワーク形成及び課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人材育成を目的とした研修を実施することとしています。

三八地区では、コーディネーターやボランティアの育成と活用等について、弘前大学 COC 推進室 助授 野口拓郎氏を講師にお招きし、講義と演習を通して御教授いただきました。

1. 講演:【テーマ】「事業や活動を推進するコーディネーターの育成とその活用について」

コーディネーターの育成とその活用について、行政としてどのように取り組んで行けばよいか、事例をもとにお話いただきました。今回は、広島県三次(みよし)市で実際に御自身が取り組まれた実践事例から、「地域コーディネーター発掘育成」を核として、「地域の自治力」・「教育」・「外部人材活用」・「メディア」等のカテゴリとどのように連携して協働のまちづくりを進めてきたのかを具体的にお話いただいたので、受講者にとっては大変参考になるものでした。

【講義の様子①】

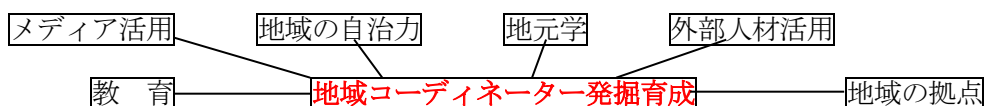


【講義の様子②】



【概要】

- 広島県三次市の事例を中心に (マインドマップの紹介)



- 活動のねらいを明確にする … 「その活動は誰のため？」
- 地域づくりの課題 … ・あきらめ観 → 小さな成功体験を
・参加意欲が低い → 楽しい取り組みの一体化
- ケーブルテレビでの情報発信と収集 *ケーブルテレビの設置率が高く、市議会の視聴率も高いという特徴
- 講演会と視察の方法に工夫を … **キャストイング** * 「地域課題」と「学生の特徴や関心事」の掛け合わせ
- 地域インターンシップによる地域コミュニティの輪の広がり
→ 期待できる成果 … 求心力、受け皿、発掘、再評価、信頼感、ロールモデル、新たな創意・工夫
- 『共育』: 共に育つを意識する

2. 演習：「事業推進を支えるボランティアの活用の在り方について」

演習は、講師の野口氏をファシリテーターにグループワークを行いました。「ボランティアの活用の在り方」を基本テーマとしながら、「子ども達を対象にした活動に、いかに地域の人々を巻き込むか？」と「住民が参加したくなる研修や講座とは何か？」を具体的に考える内容でした。

「これなら真似できそう」、「直感で良い案が思い浮かんだ」、「これに関してはじっくり考えてみたい」などを、ヒントになりそうな写真を見ながら、付箋にメモしてディスカッションするところから始め、逆に、『絶対参加したくない研修や講座は？』についてブレインストーミングしました。

受講者は、逆転の発想で研修や講座を見直すことにより、目的を明確にした住民参加やボランティア活用を押し進めるヒントを得ることができ、とても有意義な演習になったことを喜んでいました。

【演習の様子①】



【演習の様子②】



【グループ発表の様子】



【概要】

- 演習課題 … ①「子ども達を対象にした活動に、いかに地域の人々を巻き込むか？」
↓ ②「住民が参加したくなる研修や講座とは何か？」
写真を見て考えよう！ ～ 「これなら真似できそう」、「直感で良い案が思い浮かんだ」、「これいいなあ」
「これに関してはじっくり考えてみたい」等
- それぞれの立場で … 県職員、小学校の先生、60～70代の方々、地域おこし協力隊、地域の20代女性
敬老会の代表者、80代男性、朝市リーダーの50代女性、50代&20代の住民
ポイント → ・教えるのが好きな人を巻き込む ・子ども達の思いに無関心な住民はほとんどいない
・開催場所の工夫 ・親子連れで楽しめ、年配の方の出番もある
・研修会後の工夫 ・子ども達に関心を持ってもらう工夫
・学びたくなるような発信 ・年配の方々が若者を講師として招く
・重苦しい会議の振り返りを楽しく ・現状に満足しない姿勢をサポート
・大勢での視察
- グループディスカッション ～ 「こう感じた理由は……」、「その考えに同感」等
↓
『絶対参加したくない研修や講座』とは？ → ・講師の話が眠気を誘う
・上司からの命令
・部屋が暑すぎる 等

3. 受講者の感想

- ・もっと様々な世代と交流してみたいと思った。
- ・子どもの考えを企画に反映させたい。
- ・若者層だけが活躍しているように見られるが、実はこれまで地域を支えてきたシニア層の存在がとても重要だと思いました。